

博多の箱庭の世界



1

今は見ることのできない博多の池灯籠の飾り物が、遺跡の発掘調査で見つかっています。博多遺跡群第213次調査では大量の素焼きの人形とともに小さな家や祠、橋、灯籠などが出土しました。これらは山水や庭園を模した箱庭の中に飾るためのミニチュア製品です。下の写真の家は手のひらサイズの小さな製品ですが、茅葺屋根や土間などが精巧につくられており、当時の家の様子がよく表現されています。時を超え、作った人の思いが伝わるようです。



出土した箱庭道具 江戸末-明治期（福岡市埋蔵文化財課所蔵）



2



3

1. 灯籠 2. 祠 3. 家

※現在「ダイワロイネットホテル博多冷泉」に展示中
福岡市博多区冷泉町2-7

--「箱崎の地蔵祭 人形飾り」（映像資料）

企画：福岡市文化財活性化実行委員会

制作：RKB映画社

今回紹介した箱崎の人形飾りを紹介したDVD。

福岡市総合図書館で借りられます。

場所：福岡市早良区百道浜3-7-1

TEL：092-852-0600（代表）

<https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>

--埋蔵文化財センター 収蔵庫見学ツアー

クイズを解きながら迷路に見立てた収蔵庫から脱出します！

日時：8月22日（土）①午前9時半～正午 ②午後1時～4時

対象：小学生と保護者

定員：①15組 ②25組

（いずれも抽選1組5人まで）

場所：福岡市博多区井相田2-1-94

TEL：092-571-2921

参加費：無料

申し込み方法：メールに催し名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名・年齢（学年）、電話番号、希望時間帯をきて8月1日～14日に送ってください。来所でも受け付けます。

maibun-c.EPB@city.fukuoka.lg.jp



ご来館の際はマスクの着用をお願いします！

※新型コロナウイルスの感染防止策により、臨時休館することがあります。各館にお問い合わせください。

板付遺跡 弥生のムラ
キャラクター



いなほん ゆうにゃん

福岡市経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1

TEL：092-711-4666 FAX：092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課

TEL：092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課

TEL：092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課

TEL：092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター

TEL：092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



歴史の風 ふくおか文化財だより

Vol.28 2020年8月



福岡の夏の訪れ

夏に箱庭を飾る風習があるのをご存じですか？

江戸時代、お盆の時期に、砂を敷いた箱に人形などを飾り付けた箱庭を披露する風習がありました。博多でも戦前まで「池灯籠」と呼ばれる箱庭飾りが行われていましたが、現在では見られなくなりました。

しかし、東区の箱崎とその周辺には、池灯籠の風習と箱崎の地蔵信仰が結びついた行事「人形飾り」が、今に伝わっています。今年は新型コロナウイルスの影響で「人形飾り」のお祭りは開催されませんでしたが、7月23、24日の2日間、箱崎公民館にだけ箱庭が飾られました。箱庭は見る人に夏の訪れを感じさせてくれます。



箱崎人形飾り

福岡市博物館提供

～ 箱庭づくりにチャレンジ ～ 箱崎「人形飾り」

毎年夏に開催される「人形飾り」というお祭りが 있습니다。
人々は子どもの無病息災を願って、砂を敷いた箱に人形などを飾り付け、その箱庭を玄関先に置きます。子どもたちが線香をもって、家々の箱庭をまわる姿は箱崎の夏の風物詩です。昔は博多人形師が作った箱庭用の素焼き人形が売られていました。現在は昔の人形を大切に使ったり、好きな人形を箱庭に飾ったりしています。



伝統的な箱庭

砂の上に山や川を表現し、苔を敷く。素焼の人形やお堂、橋などを飾る。



オリジナル箱庭を作ってみよう！

用意するもの：箱、砂、紙粘土、ヘラ、絵具、絵筆など
(木粉粘土を使うと素焼風に仕上がります)

粘土で好きな
人形や飾り物を作ろう！

箱に砂を敷いて
人形を飾って完成！



オリジナル箱庭を作ったら

＼福岡市の文化財をつけてSNSに投稿してね！



～ 板付遺跡復元水田で稲作 ～ 水を制する者はタニシ！？を制する

博多区板付の国史跡板付遺跡「弥生のムラ」では、発掘された水田の形状を参考に復元した水田で毎年市民の皆さんと田植えを行っています。今年は新型コロナの影響で「田植え祭り」は中止となりましたが、6月末に地域の協力を得て田植えを終えました。



田植えの様子

実りの秋を迎えるためには、これからタニシによる稲の食害を防ぎつつ、草も生えさせないように、毎日の水の管理が重要となります。水田に水を入れたり抜いたり調節して、食害防止と除草のバランスをとるのは非常に難しいことです。稲作が伝わってきた弥生時代も、既に水路から水を引いて水田の水量調整をしていたようです。当時から秋の収穫のため、同じような管理をしていたかと思うと、稲作技術の高さと人々の労力に驚かされますね。



田植え終了！

板付遺跡 弥生のムラ

場所：福岡市博多区板付3-21-1 TEL：092-592-4936

～ 埋蔵文化財センターだより ～ 夏の定番？弥生時代の小さなウリ

夏の暑い日は、冷えたスイカやメロンがおいしいです。水分やカリウムを多く含むスイカやメロン、キュウリなどの「ウリ科植物」は、熱中症予防にもよいとされています。

遺跡の発掘では、時々「植物の種」が出土しますが、「ウリ科植物」の種は、約2,000年前の弥生時代の遺跡でも発見されています。



たとえば、福岡空港の東側にあるくぼの久保園遺跡（博多区）では、弥生時代の3種類の「ウリの種」が出土しました（写真1）。

写真1 久保園遺跡出土のウリ科植物の種子
(左からモルディカメロン型、マクワ・シロウリ型、雑草メロン型の種)

種しか残っておらず、実の形などは分かりませんが、現代のマクワウリ（写真2）よりも、小さく、甘くない「ウリ」だったようです。

弥生人たちも夏の暑い日に冷やした小さな「ウリ」を食べていた？のかも知れません。



写真2 現代のマクワウリ

福岡市埋蔵文化財センター ホームページ

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>

